

病院薬剤師への招待

薬学の専門性を最大限に生かそう！



一般社団法人
日本病院薬剤師会

活躍する病院薬剤師

② 手指衛生の徹底を再度指導します。

看護師

医師

薬剤師

① 抗MRSA薬の使用量が今月は増えています。

検査技師

感染制御チームのミーティング

活躍する病院薬剤師

薬剤師

医師

滲出液が減ってきました。
プロスタグランジン軟膏
に変更しましょうか。

褥瘡対策チームの回診

活躍する病院・診療所薬剤師

薬剤師

① 山本太郎さんに
カルベジロール錠
を処方しました。
指導よろしくね。

医師

② 山本さんは、喘息患者さんなので
禁忌です。

医師へ処方提案する薬剤師

活躍する病院・診療所薬剤師

薬剤師

① 血清カリウム値が**5.8**になりました。
スピロノラクトン錠を継続しますか。

② フロセミド錠は継続。
スピロノラクトン錠は中止します。

医師

医師へ処方提案する薬剤師

活躍する病院薬剤師

納豆菌は、腸内で
ビタミンKを生産します。
ワルファリンが効かなくなる
ことがありますので、
納豆の食事制限が必要です。

薬剤師

看護学生への講演

活躍する実務実習生

ドライシロップ製剤に
ジュースを混ぜると、
苦くなる薬があります。

薬学生

ドライシロップの飲ませ方

- 基本的にはドライシロップを飲ませるには、
飲ませる前に、少量の水(小さじ1～2杯)
に混ぜて飲ませます。

口に残ったお薬が苦くなる事があるので
飲ませた後は、すぐに水を
飲ませてあげてください。



病院職員への情報提供

皆さんが学んでいる「薬学6年制教育」

医療の質の改善が求められるなか、医療人としての質の高い薬剤師養成に対する期待はとて大きいものがあります。

薬学は従来の主として化学に立脚した「モノ」を対象とする学問はもとより、「ヒト」を対象とする薬物治療に直接関連する学問を発展させることが求められています。

薬剤師を目指す皆さん

基礎的な知識・技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力を学んでいます。

臨床の現場において長期の実務実習を行うなど、6年の薬学教育の中で、医療薬学を十分に学習しています。

医療人としての病院薬剤師

氾濫する情報

- ・ 薬剤師は . . .
そのなかから医薬品や薬物療法に関して、**エビデンスに基づいた情報**を的確にピックアップ
- ・ その情報の**正確性・妥当性を評価し、臨床現場に応用**することが求められます。

薬剤師には**臨床マインド**と**研究マインド**のバランスが重要です。

臨床現場において

- ・ 患者さん、他の医療従事者などから出される**医薬品や薬物療法に関する疑問や問題点を抽出し**、さまざまな手法を用いて自ら解決する能力も必要です。

医療従事者としての側面と、**科学者**としての側面が必要です。

特定の疾患に対する薬物療法などについて
特に専門知識を身につけた薬剤師に対して



自分の専門領域を証明する制度として、
各職能団体や学会などで**専門・認定薬剤師制度**
が設立され、年々その取得者は増加しています。

専門性を兼ね備えた薬剤師

医療チームのなかでもその専門性をいかんなく発
揮することで、薬物療法へ大きく貢献できます。

「病院薬剤師」

は、

薬学生として学んできたこ
とを最大限に活かします。

病院薬剤師の仕事

調剤

製剤

無菌調製

医薬品
管理

医薬品情報
提供

薬剤管理
指導

薬剤病棟
業務

薬剤治療モ
ニタリング

試験研究

治験

教育

医療安全

調 剤

1. 処方せん受付

オーダリングシステム等により医師が処方せんをコンピューターで入力すると処方せんが調剤室に出力されます。また、同時に薬袋なども発行されます。



2. 処方監査

薬剤師が処方せんの記載事項に不備がないことを確認した後、処方内容が適切かどうかを確認します。

* 剤形・用法・用量・相互作用・投与禁忌・重複投与などの確認

3. 疑義照会

必要に応じて処方医師に確認します。

薬剤師法 第24条(処方せん中の疑義)

薬剤師は、処方せん中に疑わしい点があるときは、その処方せんを交付した医師、歯科医師又は獣医師に問い合わせ、その疑わしい点を確認した後でなければ、これによって調剤してはならない。

調 剤

4. 調剤

錠剤，散剤，水剤，外用剤など，処方せんに基づき，それぞれ調剤します。



5. 鑑査

調剤者とは別の薬剤師が，調剤された薬を再び確認します。

- ・ 正しい薬が調剤されていること
- ・ 薬袋の記載事項が適切であること
- ・ 処方薬の数量，秤取量が正しいこと
- ・ 処方薬の品質が保たれていること など

6. 投薬

お薬の説明書を活用し，薬効，副作用，服用（使用）上の注意などの情報提供を行います。

注射薬調剤

- ・入院患者に使用する注射薬を1日分ずつ専用カートに取り揃えます。
- ・注射処方せん監査
投与量・投与方法・投与速度・混合による化学変化 など
- ・注射薬取り揃え
チェックを行った注射処方せんに基づいて、患者一人分ずつ注射薬を取り揃えます。
- ・鑑査
取り揃えた者とは別の薬剤師が鑑査を行います。
- ・病棟払い出し
病棟へ注射薬を送ると同時に、医師や看護師へ注射薬の適正使用に関する情報提供を行います。



製 剤

院内製剤の調製

院内製剤とは

患者さんの病態やニーズに対応するために、医師の求めに応じて病院内で薬剤師により調製され、それぞれの病院内の患者に限って用いられる製剤



- ◆個々の患者に最適な薬剤を，最適な投与経路，剤形で投与するのに，市販の医薬品では対応できない薬の調製
- ◆院内で大量に使用する薬などを一括して調製
- ◆注射薬をはじめ無菌的に調製する必要のある薬を無菌製剤室で調製
- ◆臨床研究に用いられる薬剤の調製

製剤室で効率的かつ安全に調製を行うことは、医療過誤や院内感染の防止にもつながります。

無菌調製：注射薬混合

患者さんに安全な治療を提供するため、高カロリー輸液や化学療法外来で使用する抗がん剤を無菌の環境下で混合します。

高カロリー輸液

糖，アミノ酸，ビタミン，電解質などで構成され、中心静脈（上大静脈や下大静脈）から高濃度の栄養輸液を投与する中心静脈栄養（TPN）に用いる輸液剤

化学療法外来

抗がん剤による治療を行う専門外来で、薬剤師は処方せんの薬用量，投与期間，投与方法等の確認を行った上で、混合調製



医薬品管理



適切な発注・在庫管理

- ◆医薬品の管理(温度や湿度等を考慮した品質管理)
- ◆デットストックに留意(経済性を考慮した数量管理)
- ◆使用期限切れ薬剤は, 適切な方法で廃棄
- ◆在庫数・アイテム数が多いため, ヒューマンエラーを考慮した取扱いが必要

医療用麻薬・覚せい剤原料の管理

- ◆厳重な保管の下に出納記録

特定生物由来製品(輸血用血液製剤, 血漿分画製剤など)

- ◆入庫・施用の記録・管理
- ◆管理簿は, 20年間の保管管理が義務

医薬品情報

医薬品情報室では医薬品を適正に使用するために医薬品に関する情報を収集・評価し、その情報を医師などの医療従事者や患者さんに提供することが主な業務です。



◆情報の収集・管理

各医薬品に関する新しい情報、その他医薬品を使用する上で必要となる情報を迅速に収集し、情報評価・保管・管理

厚生労働省から発表される副作用情報、製薬会社から伝達される各種情報、医薬品に関する書籍や学術雑誌 など

最近では、医薬品リスク管理計画(RMP)も「特定されたリスク」「潜在的なリスク」を患者モニタリング、副作用原因の究明等々に活用されています。

◆院内イントラネットやインターネットを利用して検索できるデータベースなど様々な情報源を整備

◆医療従事者や患者からの医薬品に関する質問に対する情報提供

◆後発医薬品(ジェネリック医薬品)の選定

◆薬事委員会の事務局としての関与

病棟薬剤業務

主に投薬前における患者に対する業務、
医薬品の情報及び管理に関する業務、
医療スタッフとのコミュニケーション



- ◆ 患者背景及び持参薬の確認とその評価に基づく処方設計と提案
- ◆ 患者状況の把握と処方提案
- ◆ 医薬品の情報収集と医師へ提供など
- ◆ 薬剤に関する相談体制の整備
- ◆ 副作用などによる健康被害が発生した時の対応
- ◆ 他職種との連携
- ◆ 抗がん薬などの適切な無菌調製
- ◆ 当該医療機関及び病棟における薬品の投与・注射状況把握
- ◆ 当該病棟における医薬品の適正な保管・管理

薬剤管理指導業務

主に投薬後における患者に対する業務



◆薬歴の確認

◆処方内容の確認

◆ハイリスク薬・麻薬などへの対応

◆患者さんへの説明と指導等

患者さんへの投薬（注射剤，内服剤など）について患者さんが十分理解できるよう説明，指導を行います。また、患者さんとの面談により，良好な信頼関係を構築します。

◆退院時指導

退院後も適切な薬物療法が継続できるよう、患者さんの相談に応じます。

◆薬剤管理指導記録簿の作成

治 験

院内CRC（Clinical Research Coordinator 治験コーディネーター）として

治験においてCRCが果たす役割は極めて大きく、CRCがいなければ治験の実施は事実上不可能です。CRCには、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、リスクマネジメント能力などの様々なスキルが要求されます。

主な業務内容は、インフォームド・コンセント取得補助や、治験のスケジュール管理、治験中の患者さんのサポート、症例報告書作成補助などを行っています。

治験薬管理者として

GCP「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」（＝GCP[Good Clinical Practiceの略]）では、医療機関における治験薬管理者は“原則として薬剤師とする”とされており、治験薬管理者は治験薬を適切に管理しなければならない旨が規定されています。治験を実施する医療機関においては、治験薬の管理・調剤は薬剤師が行っています。よって、治験薬を厳格に管理することを通じて、治験の倫理性、科学性の確保へ薬剤師が大きく貢献しています。

治 験

治験審査委員として

治験審査委員会の委員として医師や弁護士、教員などの専門家のほか、一般人も加わって、治験の実施の基準（GCP省令）に沿って、治験実施の可否を検討し、治験開始後は定期的に審査を行います。

治験審査委員会（IRB = Institutional Review Board）は、治験実施機関が治験を実施する際に厚生労働省に届け出た治験デザインを審査する中立的な組織で、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査する委員会です。

治験事務局員として

治験事務局は、病院などで治験に関する各種記録の管理など、治験実施にまつわる様々な事務を担当する組織で、医療機関の長（病院長 など）により指名されます。

病院薬剤師は、治験薬の管理や併用薬の確認、治験に参加された患者さんの薬に関する相談や副作用などのチェックへの関わりなど、大きな役割を担っています。

新しい病院薬剤師業務

医薬品の適正使用に加えて，医薬品が関わる医療事故や医療費削減の面から，薬の専門家，リスクマネジャーとしての薬剤師の役割と責任が明確になっています。



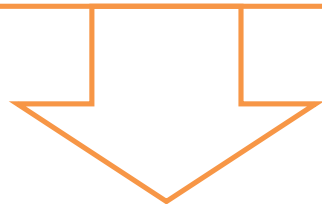
従来の業務に加え病院薬剤師が積極的に取り組んでいる業務

- ・ 調剤を基本にした，EBMに基づく医薬品情報提供と処方監査
- ・ 薬歴管理や服薬指導による薬効・副作用モニター
- ・ 薬物血中濃度モニタリング（TDM）による個別化投与設計やテーラーメイド医療への対応
- ・ 高カロリー輸液や抗がん剤などの無菌調製
- ・ 治験管理や医師主導治験への対応
- ・ 医薬品適正使用による医療経済への貢献
- ・ 先端的薬物治療の開発や探索的臨床研究の支援

医療安全

リスクマネージャーとしての病院薬剤師

近年、極めて効果の優れた医薬品が数多く開発されていますが、反面、重篤な副作用の発現や複雑な使用方法など、薬物療法を取り巻く環境が大きく変化し、医療事故の約半数は医薬品関連であるともいわれています。



このような中で、病院薬剤師には、薬物療法の安全性を確保するための、リスクマネージャーとしての役割が期待されています。

病院薬剤師によるリスクマネジメント

内服・外用薬 および注射薬 の処方箋

- ・薬学的な見地から過量，重複，相互作用，禁忌などを検討
- ・必要に応じて疑義照会，処方内容を変更

医薬品管理

- ・毒薬や劇薬，麻薬，向精神薬，血液製剤をはじめとした院内医薬品
- ・盗難や取り間違えが無いよう管理
- ・細菌汚染や光・高温による変質を防止するなど品質管理

高カロリー輸液 や抗がん剤などの ハイリスクな 注射薬

- ・薬剤師が無菌的に混合調製

医薬品情報 提供

- ・医師の処方時など，医療スタッフに対し，安全で適正に行えるよう必要な医薬品情報を提供
- ・持参薬や市販薬も含めて患者さん毎に薬歴を作成し，他の医療スタッフと情報を共有

薬学的管理

- ・患者さんへ薬の作用や注意点などを説明
- ・フィジカルアセスメントを通じた全身の観察，検査データの検証
→ 医薬品による副作用の早期発見，防止

安全対策

- ・不幸にして発生した副作用や医療事故
→ 院内委員会 などで検討，再発防止に向けた対策立案

病院薬剤師によるリスクマネジメント

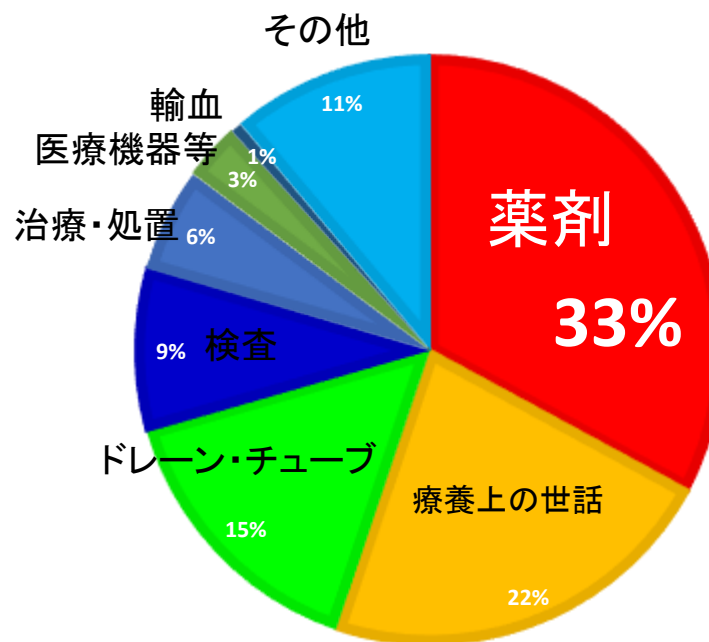
一例) 病棟担当薬剤師常駐による, 薬剤に関するインシデントの減少

病棟薬剤師の医師などとの協働の中で, 薬物療法の検討, 注射薬調製, 点滴投与時の注意事項の確認を実施したことにより, 薬剤に関するインシデント報告件数が減少しました。

「医療事故収集等事業 平成27年年報」のヒヤリ・ハット件数で「薬剤」は全体の33%にも上ります。

病棟薬剤師の介入により, これらの件数のさらなる低下が期待されます。

ヒヤリ・ハットが発生した場面



総発生件数 = 784, 190件

公益財団法人日本医療機能評価機構「医療事故情報収集等事業平成27年年報」より抜粋・改変

チーム医療の推進

チーム医療とは

- ・ 多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに、互いに連携・補完し合い、患者さんの状況に的確に対応した医療を提供すること

「医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門家である薬剤師が主体的に薬物療法に参加することが非常に有益である」

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」
(医政発0430第1号平成22年4月30日)

チーム医療における薬剤師の業務

1. 薬剤の種類，投与量，投与方法，投与期間等の変更や検査のオーダーについて，医師・薬剤師などにより事前に作成・合意されたプロトコルに基づき，専門的知見の活用を通じて，医師等と協働して実施すること。
2. 薬剤選択，投与量，投与方法，投与期間などについて，医師に対し，積極的に処方提案すること。
3. 薬物療法を受けている患者（在宅の患者を含む。）に対し，薬学的管理（患者の副作用の状況の把握，服薬指導など）を行うこと。
4. 薬物の血中濃度や副作用のモニタリングなどに基づき，副作用の発現状況や有効性の確認を行うとともに，医師に対し，必要に応じて薬剤の変更などを提案すること。
5. 薬物療法の経過などを確認した上で，医師に対し，前回の処方内容と同一の内容の処方提案すること。

6. 外来化学療法を受けている患者に対し，医師などと協働してインフォームドコンセントを実施するとともに，薬学的管理を行うこと。

7. 入院患者の持参薬の内容を確認した上で，医師に対し，服薬計画を提案するなど，当該患者に対する薬学的管理を行うこと。

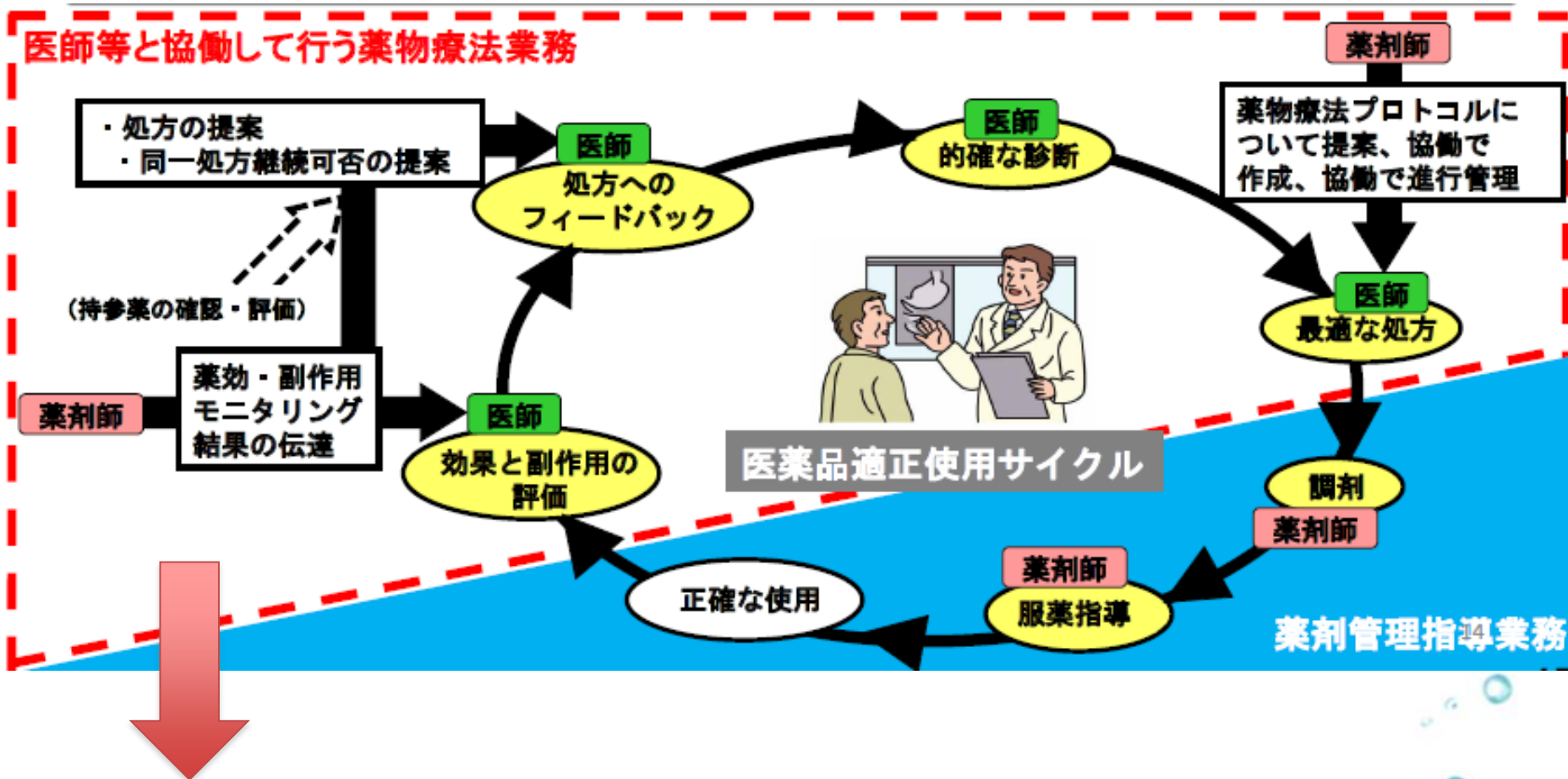
8. 定期的に患者の副作用の発現状況の確認などを行うため，処方内容を分割して調剤すること。

9. 抗がん剤などの適切な無菌調製を行うこと。

また，薬剤師以外の医療スタッフが，それぞれの専門性を活かして薬剤に関する業務を行う場合においても，医療安全の確保に万全を期す観点から，薬剤師の助言を必要とする場面が想定されることから，薬剤の専門家として各医療スタッフからの相談に応じることができる体制を整えることが望まれる。

病棟薬剤業務

- ・病院薬剤師が病棟において、薬物療法の質の向上を目的として薬剤関連業務（病棟薬剤業務）を実施しています。



病棟薬剤業務

病棟薬剤業務

「病棟薬剤業務」は、従来実施されている「薬剤管理指導業務」とは別のものです。

「病棟薬剤業務」に対して実施加算1（週1回，100点）および実施加算2（1日につき，80点）が算定可能です。

医薬品の適正使用サイクルの中で，医師が処方するまでの上流部分が「病棟薬剤業務」，個別の患者さんにアプローチするのが「薬剤管理指導業務」です。

「病棟薬剤業務」加算を受けるためには，1週間当たり20時間の病棟薬剤業務を実施する必要があります。

「薬剤管理指導業務」を加えると，病棟担当薬剤師は，通常の勤務時間8時間のうちのほとんどの時間は病棟で業務をすることになります。

病棟薬剤業務の例

医薬品の投薬・注射状況の把握

使用している医薬品の医薬品安全性情報などの把握及び周知並びに医療従事者からの相談応需

入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案

2種以上（注射薬及び内用薬を1種以上含む。）の薬剤を同時に投与する場合における投与前の相互作用の確認

患者等に対するハイリスク薬などに係る投与前の詳細な説明

薬剤の投与にあたり、流量又は投与量の計算などの実施

その他

必要に応じ、医政局通知（平成22年4月30日医政発0430第1号）で定める業務（3、6及び8を除く）

病棟担当薬剤師の活躍例

病棟担当薬剤師の活動状況

他スタッフへの情報提供



服薬指導

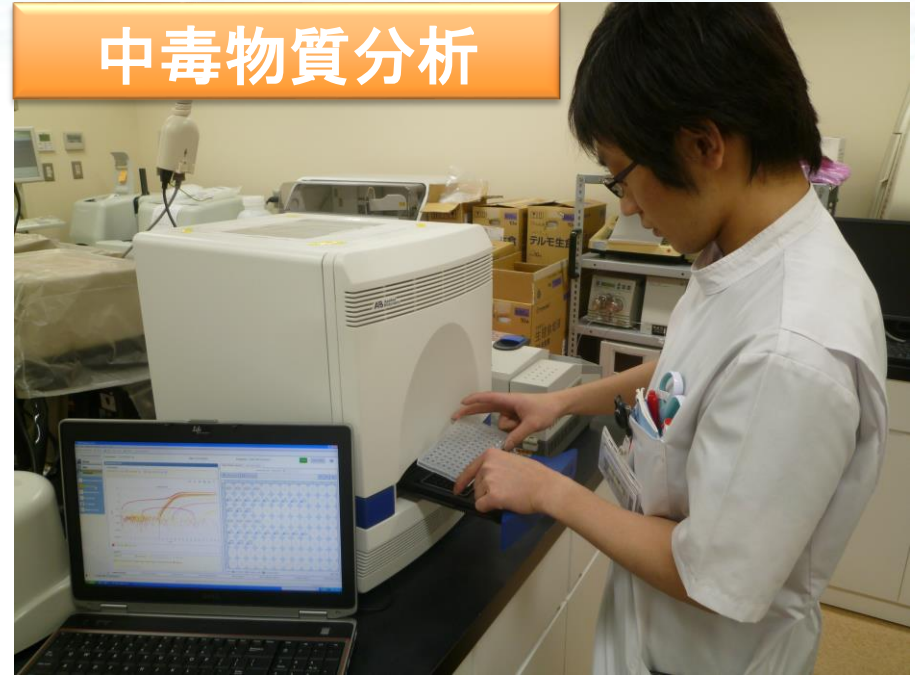


高度救命救急センターの担当薬剤師

症例カンファレンス



中毒物質分析



業務内容

- ・ 薬品管理業務（定数薬の確認など）
- ・ 薬剤管理指導業務
- ・ 医師や看護師，その他のスタッフへの情報提供
- ・ 持参薬の鑑別
- ・ 回診への参加
- ・ 中毒物質分析

など



病棟・医薬品情報カンファレンス

毎週1回（月）

病棟担当者＋医薬品情報担当で実施



安全性情報や添付文書改訂情報の周知、副作用報告、症例検討を実施



最新の医薬品情報を各病棟担当薬剤師に確実に周知する体制の確立

（服薬指導室にて）

病棟業務のタイムスケジュール

病棟業務時間 8:30～17:15

- 持参薬の確認・服薬計画提案
- 服薬指導
- 薬効・副作用のモニタリング
- 処方提案
- 薬の管理（アドヒアランス確認等）
- 医師・看護師への情報提供・相談対応

感染症治療に用いられる抗菌薬について

医師・薬剤師あるいは
感染予防対策委員会

作成

抗菌薬使用ガイドライン・
TDM実施マニュアル

薬剤師

- ・ 抗菌薬の効果・副作用についてモニタリング
- ・ 薬剤の血中濃度，菌種や薬剤耐性など必要な検査をオーダー
- ・ 個々の患者さんのTDM（PK／PDパラメータの算出）の解析，体内動態などのエビデンスに基づき，使用薬剤や投与量の変更，注射剤から経口への変更時期について提案

TDM

(therapeutic drug monitoring : 薬物治療モニタリング)

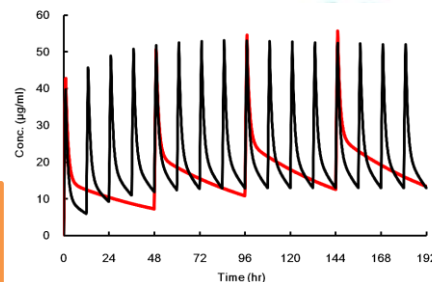
医薬品の副作用発現を防止し治療効果を高め、個々の患者さんの薬物治療を最適化するために、薬物血中濃度や生化学検査値の他、様々なバイオマーカーを指標に薬物投与設計を行う、個別化医療（テーラーメイド医療）の手法です

一般的には、薬物血中濃度を指標に投与設計を行うことがTDMとよばれています

TDM業務の位置付け

(日本化学療法学会 TDM標準化ワーキンググループ)

「薬物血中濃度をはじめ、治療効果や副作用に関するさまざまな因子をモニタリングしながら、それぞれの患者に個別化した薬物投与を行うTDMは、薬剤師の専門性を発揮し、治療に貢献するうえで極めて重要な技能である」



TDMは臨床薬剤業務を行うにあたって不可欠な技術です

薬剤師業務事例

褥瘡治療

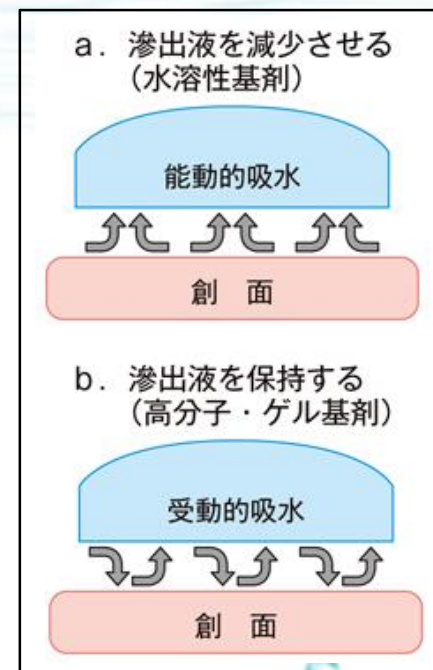
・褥瘡の病態評価

発症部位
皮膚の移動方向
残存組織
創縁の性状
創面の性状
肉芽の形態

・薬剤選択

創の湿潤環境に応じた基剤の選択
病期に応じた薬剤選択
創の変形に応じた固定と創内の薬剤保護

基剤の「能動的吸水」と「受動的吸水」



野田康弘, 褥瘡会誌, 13, 24-28 (2011)

褥瘡の病期

黒色期



黄色期



赤色期



白色期



日本皮膚科学会ホームページより

薬剤師業務事例

がん化学療法

・安全な化学療法のために

根拠に基づきレジメンを管理・検証

副作用のための支持療法の提案

投与量・スケジュールの確認

血液検査・B型肝炎ウィルスの確認

抗がん剤無菌調製

・安心な化学療法のために

患者への説明(入院・外来)

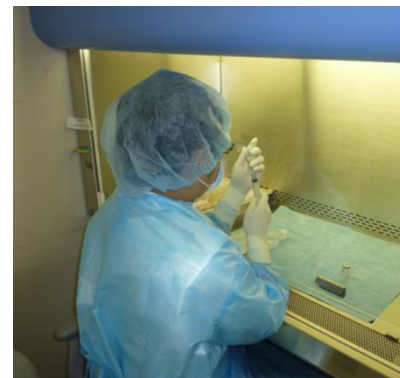
副作用のモニタリング 自覚症状の確認
血液検査等の確認

副作用対策の提案

チームカンファレンス



抗がん剤無菌調製



患者説明



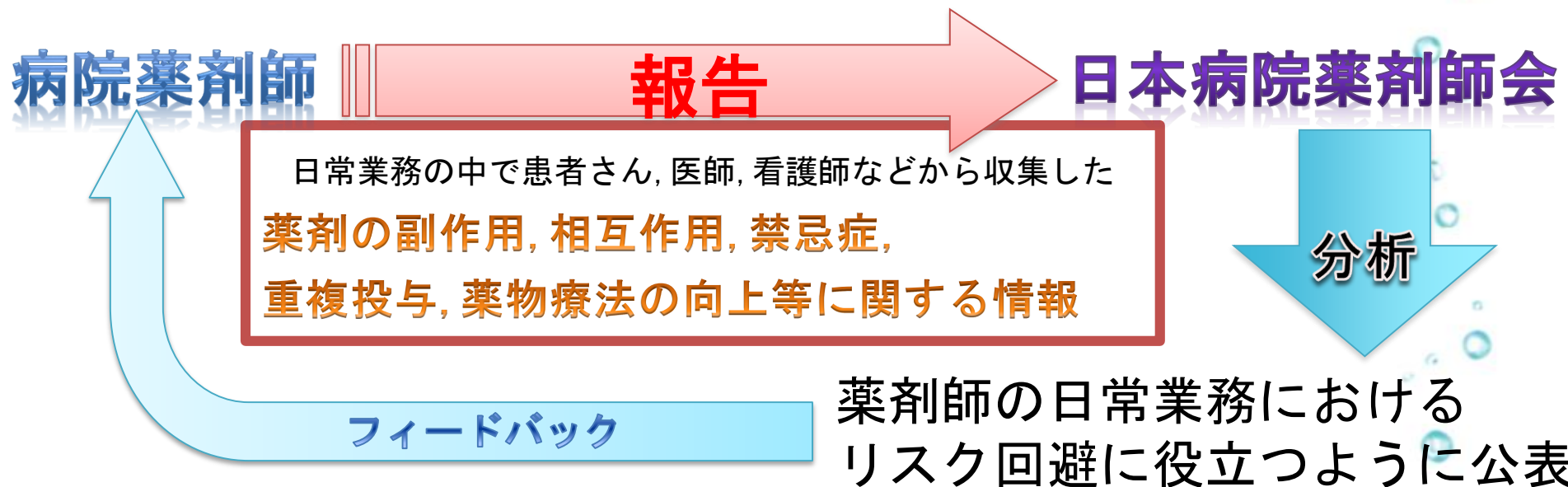
プリアボイドとは

「PREvent and AVOID the adverse drug reactions」の略称

病院薬剤師にとって、薬物療法の安全管理機能がわかる言葉として創られた造語。

「プリアボイド=副作用回避」のみならず、薬剤師が職能を発揮して発見した

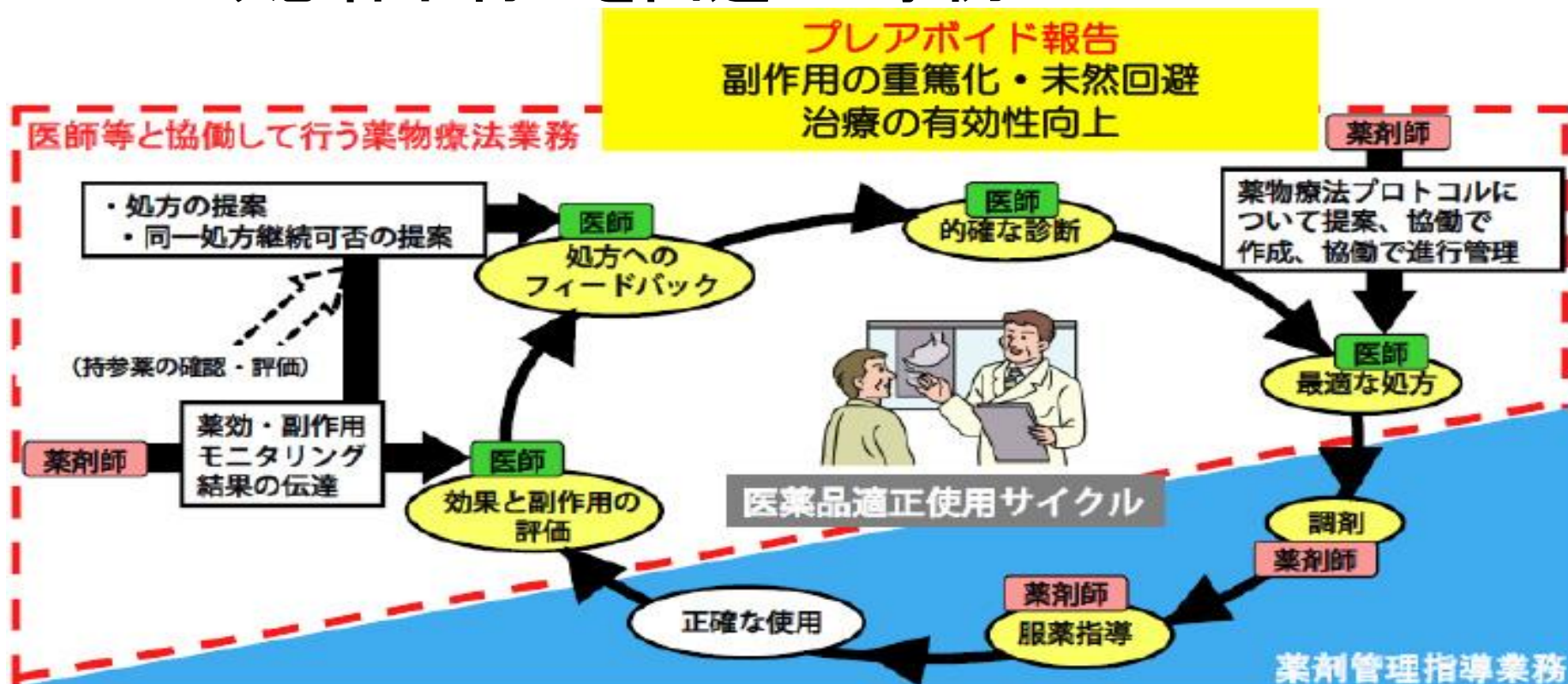
相互作用、投与禁忌などの未然回避や用量の是正、処方薬の追加提案など薬物療法の向上に寄与した事例もプリアボイドです。



◆副作用の重篤化や遷延化を回避した事例

◆副作用の発現を未然に回避した事例

◆薬物治療効果の向上(薬剤の変更, 用量の是正など)
により患者不利益を回避した事例



プレアボイドの具体事例

◆ 副作用の重篤化や遷延化を回避した事例

患者面談によって薬剤の副作用(錐体外路障害など)を発見し、被疑薬の中止・減量を提案した。

◆ 副作用の発現を未然に回避した事例

薬剤の投与量は通常量であったが、この患者は入院時の問診で腎障害のあることを知っていたので、医師に減量するように依頼した。

◆ 薬物治療効果の向上(薬剤の変更, 用量の是正など)により患者不利益を回避した事例

患者面談により、がん性疼痛のコントロールが不十分であることが判明したので、オピオイドの増量を提案し、翌日より改善した。

病院薬剤師によるバイタルサインチェック ～フィジカルアセスメント～



フィジカルアセスメント研修中の薬剤師

病院薬剤師によるバイタルサインチェック ～フィジカルアセスメント～

フィジカルアセスメントは薬学的管理の一環

病院薬剤師が病棟に出かけて入院患者さんの服薬指導を行う際、バイタルサインチェックを通じてフィジカルアセスメントを行う病院が増えています。

フィジカルアセスメントとは、意識レベルや体温、脈拍、呼吸などのバイタルサインなどを観察して患者さんの全身状態を評価することです。

病院薬剤師が服薬指導を行う際

従来

- ・ 患者さんの顔色やしゃべり方などからの全身状態把握
- ・ 看護師が記載した検温表を確認

現在

- ・ 体温計や血圧計、聴診器などを用いて、より詳しく患者さんの状態を把握
- ・ 見た目だけの観察では発見できないような初期の副作用症状の発見

病院薬剤師によるフィジカルアセスメント

薬剤師によるフィジカルアセスメントは、「薬剤師が患者さんに対して必要な情報を提供するための薬学的管理の一環」として行います。

処方箋調剤, 服薬指導, 薬歴管理に加え, 患者さんに医薬品を渡した後のフォローが重要です。そのために必要なツールがフィジカルアセスメントです。

薬剤師がフィジカルアセスメントを行う効果

医療安全に対するチェック方法が増える。

薬剤師が患者さんの状態を確認するスキルを多く持つことで副作用の早期発見が可能になる。

薬剤師がフィジカルアセスメントで得る患者情報は、チーム医療の質の向上に繋がる。

薬剤師による臨床知識の更なる習得の必要性を実感できる。

大規模災害時等の支援活動

災害時における薬剤師の役割

- ・ 支援用医薬品の選定
- ・ 支援用医薬品の仕分け
- ・ 医薬品管理（使用期限, 保管管理）
- ・ 持参薬の確認（鑑別）
- ・ 処方支援（代替薬の提案など）
- ・ 医薬品情報提供（用法・用量, 禁忌, 相互作用, 副作用など）
- ・ 限られた調剤機器の中での適切な調剤（服薬指導, お薬相談）
- ・ 衛生管理・環境管理・感染対策（インフルエンザ, ノロウイルス対策）



専門薬剤師



チーム医療の中で薬のエキスパートとして
専門的な知識と技能で貢献しています。

「認定・専門薬剤師」誕生の背景

- 医療は医学や薬学の進歩とともに高度化・複雑化しています。
- 医師、看護師だけでなく様々な職種が、それぞれの専門性を活かして、連携して治療にあたっています。
- 薬剤師はチーム医療の一員として臨床の現場に立ち、効果的な薬物治療を行うために活躍しています。
- 最近では、分子標的治療薬など新たな薬剤が登場し、薬剤師に専門領域での最新の知識・技能が求められるようになってきました。

このようにして誕生したのが「**専門薬剤師**」です。

- 専門薬剤師は、**各専門領域の薬学的な知識だけでなく、治療法などの医学的知識、薬物治療の高度な知識と技能を持っている薬のエキスパート**です。
- その医療の場で役立つ最新の薬学的専門情報を常に医療スタッフに提供し、治療がより効果的で安全に行えるように活躍しています。
- 診療報酬の各種指導料の算定要件となっている場合もあります。

日本病院薬剤師会が認定する認定・専門薬剤師

- 患者特性や疾患により, 高度な薬物療法を支援するために専門的な知識や技術を備えた薬剤師を養成しています。
- 5つの領域で一定の知識と技能を持った薬剤師を「専門薬剤師」として認定しています。
 - がん薬物療法認定薬剤師
 - 感染制御認定薬剤師・専門薬剤師
 - 精神科薬物療法認定薬剤師・精神科専門薬剤師
 - 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
 - ・妊婦・授乳婦専門薬剤師
 - HIV感染症薬物療法認定薬剤師
 - ・HIV感染症専門薬剤師

専門薬剤師の仕事

知 識

- 専門領域の治療薬や薬物療法を熟知
- 最新の薬物療法や治療薬の情報の収集、評価・活用
 - ✓ 患者さんの状態を考慮して現処方薬の妥当性を医師と協議して副作用発現を回避
 - ✓ 薬物治療に特に考慮すべき患者さん（腎不全など）への処方設計支援

経 験

- 専門領域における薬物治療の実践
- 臨床経験を次段階の治療方針に活用する
 - ✓ ハイリスクな医薬品の適正使用や重症化が懸念される患者さんへの「薬学的管理」を積極的に実施
 - ✓ 薬物治療以外の問題についても医療チームの一員として取り組む

研 究

- 専門領域における最先端の薬物治療に関する調査や研究を行う。
- 成果を学会や学術雑誌に報告
- 研究成果に基づき医療技術を進展させより優れた薬物治療の開発に貢献する。
 - ✓ 薬の適正使用に関する研究
 - ✓ 治療効果や副作用の改善等の研究

教育・研修

- 後進薬剤師の育成
- 薬学部学生の教育
- 専門領域に関する薬剤、医師、看護師など対象研修会の講師
 - ✓ 院内・院外研修会の実施や講師
 - ✓ 医療系学部学生の講義

認定・専門薬剤師になるには？

- 病院薬剤業務全般の基本的な知識と技術を備えたジェネラリストでなければなりません。
⇒ 日病薬・病院薬学認定薬剤師の認定を受ける
- その上で知識だけでなく業務や技能，研究に関する実績の評価を受け，試験に合格して，初めて認定を受けます。
⇒ 領域別 認定薬剤師 ⇒ 専門薬剤師の認定
- その後も医学，医療の進歩に合わせた各領域の知識を高めることが求められています。
⇒ 認定期間：病院薬学認定薬剤師（6年更新）
：領域別 認定薬剤師（5年更新）
：領域別 専門薬剤師（5年更新）



★日本病院薬剤師会以外にも、学会などで専門的な知識や技能をもった薬剤師を認定しています。

認定薬剤師と専門薬剤師 (日本病院薬剤師会)

指導的役割
専門領域の活動

専門
薬剤師

- 研修履修単位
- 学会発表, 論文
- 症例実績
- 認定試験

専門領域の活動

認定薬剤師

- 研修履修単位
- 学会発表, 論文
- 症例実績
- 認定試験

病院薬学認定薬剤師
ジェネラリスト

薬 剤 師

- 3年以上の本会会員資格
- 病院薬剤師業務全般の研修履修単位
- 認定試験

認定薬剤師 申請資格（例：感染制御領域抜粋）

申請は以下の全てを満たせばできます（平成28年2月14日改定 抜粋）

- 日本国の薬剤師免許を有する薬剤師
- 薬剤師としての実務経験を5年以上有する日本病院薬剤師会の会員
- 別に定める学会のいずれかの会員である
- 日本病院薬剤師会「病院薬学認定薬剤師」あるいは日本医療薬学会「認定薬剤師」であること。
- 申請時に引き続いて3年以上、施設内の感染対策委員会または院内ICTの一員（院内ICTと連携しての活動を含む）として感染制御活動に従事。
- 感染制御に貢献した業務内容及び薬学的介入により実施した対策の内容を20例以上報告。
- 日本病院薬剤師会が認定する感染制御領域の講習会、及び別に定める学会が主催する感染制御領域の講習会などを所定の単位（20時間, 10単位）以上履修している。
- 病院長あるいは施設長などの感染制御業務の従事証明及び推薦
- 日本病院薬剤師会の感染制御認定薬剤師認定試験に合格している

専門薬剤師 申請資格（例：感染制御領域抜粋）

申請は以下の全てを満たせばできます（平成20年6月17日改定 抜粋）

- 既に感染制御認定薬剤師あるいは I C D 制度協議会が認定する インフュクションコントロールドクター（以下「I C D」という。）の資格を有している者
- I C D 制度協議会に加盟している学会・研究会のいずれかの会員
- 日本病院薬剤師会が認定する学会あるいは学術大会での発表に加えて学術論文がある

学会：日本医療薬学会, 日本薬学会, 日本臨床薬理学会, 日本 T D M 学会, I C D 制度協議会に加盟している学会・研究会, 日本薬剤師会学術大会, 関連する国際学会あるいは日本病院薬剤師会ブロック学術大会

発表：感染制御領域に関する学会発表が 3 回以上（うち, 少なくとも 1 回は発表者）

論文：複数査読制のある国際的あるいは全国的な学会誌・学術雑誌に感染制御領域に関する学術論文が 2 編以上（うち, 少なくとも 1 編は筆頭著者）

- 病院長あるいは施設長などの推薦があること。
- 日本病院薬剤師会の感染制御専門薬剤師認定試験に合格している

がん薬物療法認定薬剤師

がん治療とは . . .



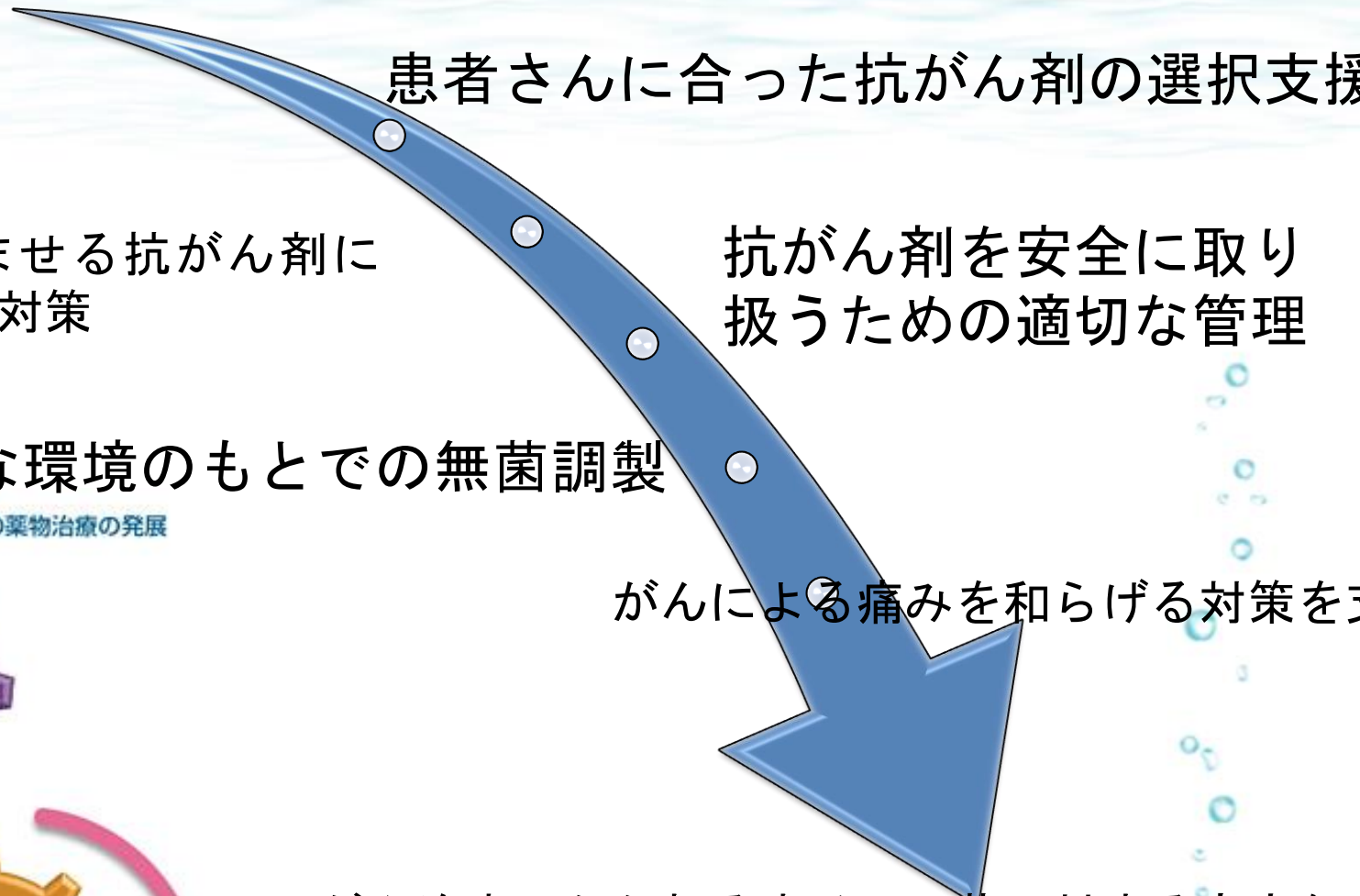
治療法

- ・ 手術により取り除いたり, 抗がん剤, 放射線を組み合わせてがん細胞を死滅させる治療
- ・ がんに伴う患者さんの痛みや苦しみを和らげる治療

スタッフ連携

- ・ 医師, 薬剤師, 看護師, あるいは放射線技師などの専門スタッフが連携したチーム医療
- ・ 栄養サポートチーム, 感染制御チーム, 緩和ケアチームなどががん治療を支援
- ・ 患者さんの精神面をサポートする医師やスタッフも支援

がん薬物療法認定薬剤師の仕事



がんの薬物治療の発展

副作用の軽減化
と
痛みの緩和

組み合わせ治療
の
選択と調製

がんの
組み合わせ治療
の
管理

がん治療にかかわるすべての薬に対する高度な知識・技能を持ち、常に最新の情報を収集してがんの薬物治療の発展を支えています。

がん薬物療法 認定薬剤師の仕事

患者に合った抗がん剤治療

- 医師の投与計画が、がん種や患者の状態に合った薬剤か？適切な組み合わせか(*)？副作用を軽減しているかなどの確認
- 患者に対して治療を始める前に抗がん剤の量や使用する周期や期間の説明
- 使用中の抗がん剤の副作用のチェックや副作用を軽減する薬剤の処方提案

* 抗がん剤を含む投与計画を「レジメン」と呼ぶ。

抗がん剤を安全に取り扱うために

- 薬剤師や看護師が抗がん剤を安全に取り扱うための対策を立てる。
- 調製する薬剤師がより清潔に安全かつ正確に調製できるような管理や指導をする。
- レジメンが自施設で安全に適用可能か評価し投与計画の立案を支援する。
- レジメン評価委員会の事務局としてレジメンの管理を行う。

がんによる痛みの緩和

- がんによる痛みを緩和する薬剤の処方提案や薬学的管理
- 医師、看護師、医療ソーシャルワーカーらとチームを組んで、協力し合いながら痛みだけでなく、生活の制限や経済的負担の相談に応じて精神的な支援を行う。

情報収集と評価, 教育・啓発

- 最新のがん薬物療法の情報を収集し、医師や看護師に情報提供して日常業務に活用する。
- 日常業務の問題点などについて薬学的な視点から、適切な薬物療法を目指した研究を行う。

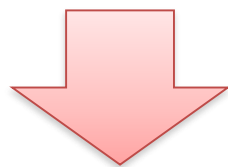
感染制御認定薬剤師・専門薬剤師

病院には、免疫力が低下した人や乳幼児、高齢者など感染症にかかりやすい患者さんが多く集まっています。

感染症は細菌やウィルスなどの病原体の感染による病気で、他の患者に伝播や伝染する特徴があります。最近では、特に抗菌薬などが効かない病原体が問題となっています。

医療機関では常に感染の危険性があるため病院内での伝染は医療機関内の全スタッフにとって共通の課題です。

また、耐性菌対策は世界規模で喫緊の課題となっています。



薬剤師は薬学的知識を活かして、医師、看護師、臨床検査技師などとチームを組んで感染対策に取り組んでいます。

感染制御薬物療法認定・専門薬剤師

科学的根拠に基づいた感染制御（感染症の予防，治療など）に関する高度な知識・技術・実践能力



感染症薬物治療の適切かつ安全な実施に貢献

- 耐性菌を発生させにくい適切な抗菌薬の使用
- 感染管理，感染経路の対策など

近隣の病院や介護施設などと連携した抗菌薬使用状況に基づいて地域で一体となった感染対策の指導や啓発活動の実施



感染制御認定・専門薬剤師の仕事

院内の状況把握と対策の実施

- 院内の感染症発生状況を早期に発見して対策を協議して実施する。
- 医師、看護師と感染対策チームとして院内を巡視し、見つかった課題等について、対策の指導や実施状況を確認する。
 - ✓ 抗菌薬や消毒薬の適正使用の確認
 - ✓ 医療廃棄物の取り扱い
 - ✓ 微生物汚染対策 など

抗菌薬や消毒薬の適正使用の推進

- 科学的な根拠に基づいた消毒薬の適正使用の推進
- 耐性菌を増やさない抗菌薬の監視や適正使用の指導
 - ✓ 病原菌に最適な抗菌薬の選択と使用方法の助言
 - ✓ 抗菌薬の血中濃度に基づく投与設計支援

ガイドラインやマニュアルの作成

- 院内の抗菌薬や消毒薬の使用状況、病原体や耐性菌の検出状況などから、専門知識を持った医師や看護師と協力して、適正使用のマニュアルやガイドラインの作成について中心的な役割を果たす。
 - ✓ 消毒薬使用マニュアルの作成
 - ✓ 抗菌薬の適正使用ガイドラインの作成

情報収集と評価, 教育・啓発

- 消毒薬、抗菌薬の臨床研究論文から最新情報を収集
- 患者や医療スタッフ、及び地域に対する感染制御に関する研修の実施
 - ✓ 院内・院外研修会の実施や講師
 - ✓ 医療系学部学生の講義

精神科薬物療法認定薬剤師・精神科専門薬剤師

精神科薬物療法認定薬剤師・精神科専門薬剤師の役割

- 精神疾患（統合失調症，うつ病や神経症など）に対する薬物治療が，安全かつ適切に行えるように，高度な知識と技術と多くの臨床経験をもって，患者さんの入院中の治療から退院後の社会復帰にまで貢献する
- より質の高い最適な精神科医療を実践し，国民の精神保健福祉を支援することを目標として活動する。

患者さんの社会復帰までも支える。

現在の精神科医療

入院治療に加え，地域において自立して社会生活を行うことを目的とした治療がすすめられており，医療と福祉の連携が不可欠となっている。



精神科領域の認定・専門薬剤師の仕事

薬物治療の最適化を推進

(患者に合った薬を選択)

- 患者個々の状態や症状に合った薬物療法を推進
- 神経機能の回復を目指した治療の支援
 - ✓ 多剤併用の見直し, 単剤化など
 - ✓ 患者、医療スタッフ双方に薬物療法を提案

副作用の予防・早期発見

- 副作用を予測して, 対処法を医師, 患者双方に提案
- 服薬中断の要因となる様な副作用の防止, 早期発見
 - ✓ 運動機能に生じる副作用の評価尺度を用いたフィジカルアセスメント
 - ✓ 検査が必要な薬剤の検査実施のサポート

薬物治療のアドバイザー

- 患者さんが積極的に治療方針の決定に参加して治療出来る様に疑問や不安の解消に努める。
- 患者さんと良好なコミュニケーションを取り, 安心して積極的に治療参加出来る様に支援する。

社会復帰の支援

- 入院中から退院後の生活を見据えて, 患者さんの生活スタイルに合わせた適切で効果的な薬物治療を提供。
- 家族や地域の支援者に情報提供して患者の社会復帰を支援。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師・妊婦・授乳婦専門薬剤師

母体と胎児・乳児の健康と安心を支えるために

- 妊婦や授乳婦に投与された薬剤は胎盤や母乳を通して、胎児や乳児に移行します。特に合併症を持つ母親の場合は胎児や乳児への影響を考慮しながらの薬物治療となります。
- しかし、判断根拠となる臨床研究は倫理的配慮等から少ないため薬物投与の判断や推奨が難しい場合があります、不安や断乳になるケースが少なくありません。
- そこで、判断根拠となる国内外の最新かつ幅広い医学情報を収集評価し、それを基に産科、小児科医師や助産師と連携して、母子が安心して治療を受けられる様に最善の薬物療法を支援し、時にはカウンセリングも担当しています。



妊婦授乳婦領域の認定・専門薬剤師の仕事

情報調査と薬学的評価に基づく医師との協働

- 国内外の文献調査, 製薬企業や厚生労働省等のデータを収集, 評価。
- 最新の医薬情報から母体の疾患治療に有効で, 胎児・乳児への安全性の高い薬を選択する判断根拠を医師や相談者に提案。

妊婦服薬カウンセリング

- 妊婦の不安に応えるためカウンセリングを実施。
- 妊娠・出産のリスクと薬のリスクを比較して, 妊婦の安心と母児の健康のために相談者の意思決定を支援。
- 妊婦が服用する薬のリスクの有無を客観的に解説して, 無用な不安の解消に繋げるカウンセリングを行う。

授乳婦服薬カウンセリング

- 母乳中への薬物等の移行や新生児の薬物クリアランス等を評価。
- 産科医, 小児科医にリスク評価を元に母乳育児の可能性を勘案して母乳育児の可能性を提案。
- 授乳婦のカウンセリングを担当し, 母乳育児のメリットと乳児のリスクを説明し, 相談者の意思決定を支援。

胎児リスクの疫学研究と母乳移行の解析研究

- 妊婦・授乳婦への薬物療法による胎児, 乳児への影響に関する情報の収集。
- 妊娠中の使用薬剤と出産結果を基に疫学研究を実施。
- 母乳中への薬物移行性の解析・評価。

HIV感染症薬物療法認定薬剤師・ HIV感染症専門薬剤師

服薬アドヒアランスを高め、安全な使用を支援

- 現在の治療法では、HIVウイルスに感染すると完全に体内から排除することはできないため、患者は一生、治療薬を服用し続けることになります。
- 治療を成功させるためには100%に近い高い服薬率を保つことが重要です。
- 積極的かつ自分の意思で服用を続けることが、治療成功の鍵を握っています。
- 専門薬剤師は、国内で市販された薬であっても、海外の最新情報を収集しながら安全に使用できるよう、医師、看護師とともにチームの一員として患者を支えます。



ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染の研究

HIV感染症領域の認定・専門薬剤師の仕事

最適な治療への貢献，薬物療法を有効かつ安全に実施

- 企業提供情報や海外の最新情報の収集
- 併用する複数の抗HIV薬や日和見感染症薬などとの薬物動態学的相互作用の確認
- 患者のライフスタイルを意識した処方提案やDI情報の提供

アドヒアランスを高める服薬援助

- 4つの介入時期（処方決定前，服薬の開始前，開始後，継続性）に関与
- 服薬阻害因子を高いコミュニケーション技術で患者の自己決定を尊重した服薬支援を行う。

社会的問題，医療制度や予防啓発への取り組み

- 薬害エイズや人権問題など等の社会的問題や背景を理解する
- 治療に関する医療制度や社会資源の知識
- 保険薬局薬剤師にも治療や理解を持ち，地域の予防啓発に貢献する。



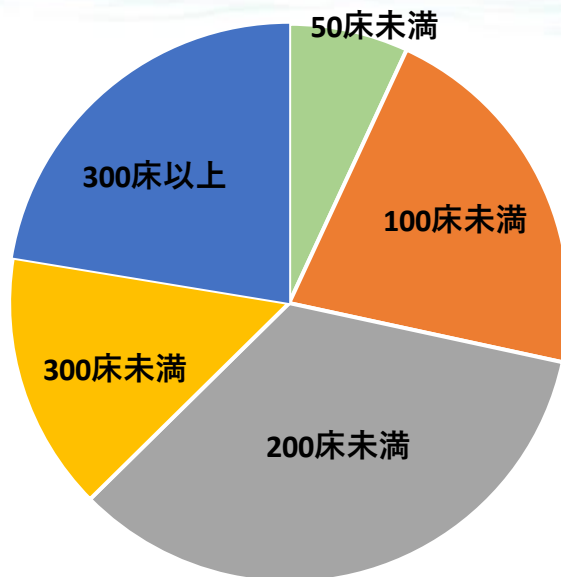
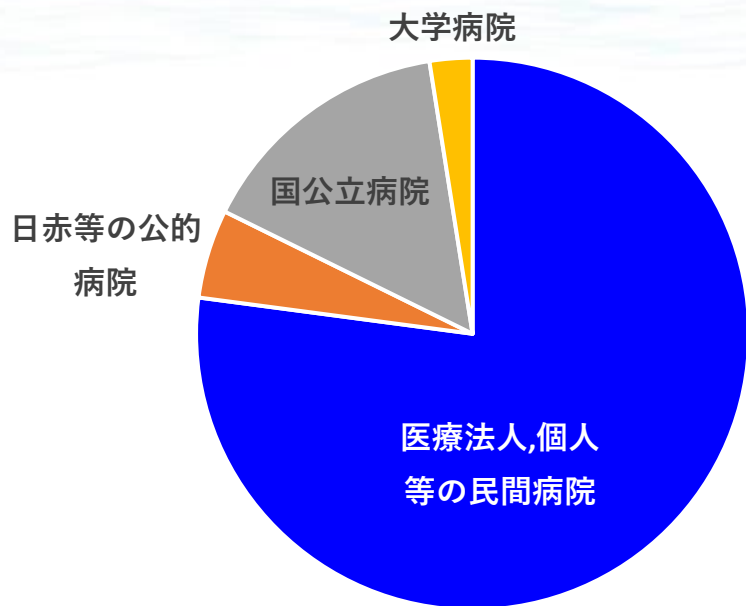
日本病院薬剤師会以外の各種認定資格例

領域	資格名称	認定団体
多領域の 知識・技能	学会認定・指導薬剤師 薬物療法専門・指導薬剤師	日本医療薬学会
	研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター
がん関係	がん専門・指導薬剤師	日本医療薬学会
	外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会
	緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会
感染症	抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会
栄養	栄養サポートチーム(NST)専門療養士	日本経静脈経腸栄養学会
内分泌	糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構
腎臓病	腎臓病薬物療法認定・専門薬剤師	日本腎臓病薬物療法学会

日本病院薬剤師会以外の各種認定資格例

領域	資格名称	認定団体
免疫	財団登録薬剤師	日本リウマチ財団
皮膚	学会認定師（認定褥瘡薬剤師）	日本褥瘡学会
小児	小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター
救急医療	救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会
医療情報	医薬品情報専門薬剤師	日本医薬品情報学会
	（上級）医療情報技師	日本医療情報学会
臨床試験	認定薬剤師・指導薬剤師・認定CRC	日本臨床薬理学会
漢方	漢方薬・生薬認定薬剤師	日本生薬学会
ドーピング	スポーツファーマシスト	日本アンチ・ドーピング機構

病院薬剤師の所属施設は？



全国の病院，診療所に勤務する薬剤師の8割近くが日本病院薬剤師会に入会していますが，会員施設（6566施設）の約60%が200床未満の民間中小病院です。（平成27年6月現在）

多くの病院薬剤師が中小病院で活躍しています。

中小病院では病棟活動はできているの??

実際に勤務されている現職薬剤師の声

中小病院ってどんなところ

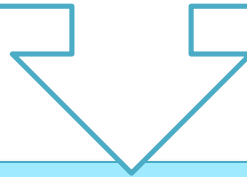
- ・「専門性の高い少数入院病床群の施設」
- ・「地域密着型, 少人数入院対応病院」

薬剤部がコンパクトで入職当初より薬剤師が行う業務全般に携わり活躍することができます。

診療部, 看護部と壁が薄く, チーム医療が行われている施設が多くあります。

病院薬剤師の専門性

近年の医薬品の増加や多様な薬物療法の進歩に伴い、薬剤師に求められる知識・技能などが以前と比べて格段に増加しています。



現在、薬剤師の業務内容は以前と比べて細分化・高度化しています。

薬剤師は薬物が関与するあらゆる業務に幅広く目を向けなければならず、薬剤師業務全般を行うことができる**ジェネラリスト**としての存在でなければなりません。



医療チームのなかにそのような薬剤師が存在してはじめて、最適な薬物療法を患者さんに提供することが可能となります。

病院への就職について

求人時期

病院薬剤師の求人は、他の職種に比べて遅い時期に掲載されますが、病院での活躍を志す方は焦らず目標を捨てずに就職活動を行ってください。

ふるさとの医療への貢献

薬科大学が無い地方の病院は特に薬剤師が不足しています。ふるさとの医療に貢献するためにも、薬科大学が無い地方の出身の方はふるさとの病院の求人も是非ご覧になってください。



日本病院薬剤師会とは？

病院薬剤師の活躍を応援する職能団体です。

- 高度化する薬剤師業務の支援を行い，医療の質に貢献！
- 薬剤師業務に関連する最新情報の収集，配信！
- 生涯研修による高度な知識，技術の獲得及び人間関係の構築！
- 薬剤師個人の責任も補償する薬剤師損害賠償責任保険の加入！
- 薬剤師の業務に対する適切な診療報酬の獲得！
- 病院，診療所，特に中小病院の薬剤師の増員支援！

私たちは，病院・診療所・介護保険施設に勤務する薬剤師を中心に活動を行っています。

全国の病院・診療所に勤務する薬剤師の約8割が日本病院薬剤師会に入会しています。

診療報酬

認定専門

生涯研修

賠償保険

プリアボイド

最新情報



お薬に関して疑問がありましたら何でもお尋ねください。

かけがえのないあなたとあなたの大切な人にこそ聞いてほしい。

私たち病院薬剤師の願いです。



病院薬剤師の仕事をわかりやすく説明したパンフレット
や院内掲示用のポスターを配布しています。
本会ホームページからもダウンロードできます

日本病院薬剤師会雑誌

Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists

重要なお知らせ	第19回CRC養成フォローアップ研修会	臨床研究推進委員会
日病薬だより	行事予定	
総説	医療ビッグデータと薬剤疫学	川上 浩司
シリーズ	病棟薬剤業務における医薬品情報室と病棟専任薬剤師との連携 ③がん化学療法領域で求められる医薬品情報	小井土 啓一
論文	メトレキサートの血中濃度測定装置の比較検討	畠山 史朗 他
	医薬品の購入規格を少量包装へ変更した時の効果に関する検討	角山 政之 他
	抗がん薬調製ロボット導入による効率の運用と費用削減効果	金野 昇 他
	プロポフォル注入症候群が疑われ薬剤師が早期介入した1例	大森 俊和 他
	薬剤部倉庫における医薬品在庫適正化に向けた取り組み	西倉 教子 他
	薬学実務実習生へのアンケート調査から見てくる在宅医療実習の重要性	角山 政之 他
	閉経後乳がん患者に対する術後ホルモン療法の副作用発現と 服薬アドヒアランスとの関連	岩井 大 他
学会報告	フィルグラステム注バイオ後続品の有効性・安全性に関する検討	鈴木 拓真 他
	院内副作用情報の収集・管理・報告に関する調査	小原 拓 他
	World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2016に 参加して	渡邊 裕之
研修報告	平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会（基礎編）を開催して	土屋 文人
	平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会（基礎編）を受講して	高野 秀仁
	平成28年度薬剤師実践セミナー（大阪）を主催して	渡邊 学
	平成28年度薬剤師実践セミナー（大阪）を受講して	酒向 幸
年頭のごあいさつ	更なる飛翔を願って	木平 健治 他
話題のくすり	エボロクマブ	小倉 正恒
研究室紹介	調剤現場で発生する問題点を薬剤学的に検証する	帝京平成大学薬学部



一般社団法人日本病院薬剤師会
The Japanese Society of Hospital Pharmacists

日病薬誌

1

第53巻1号

J.Jpn.Soc.Hosp.Pharm



日本病院薬剤師会雑誌で
最新の知識を業務で活か
す事ができます。

会員の希望者に配布
するバッチも薬剤師
であることが一目で
分かり好評です。



日本病院薬剤師会に入会すると

① 講習会で最新の薬剤師業務を習得できます。

- ・ 医療技術の進歩，医療ニーズの変化に伴う知識，技術を習得することができる各種講習会を会員価格で受講できます。
- ・ 講習会に参加できない方もeラーニングにより講習会の講義映像・資料で学習が可能です。

② 最新情報・論文・調査報告を収集できます。

- ・ 日本病院薬剤師会雑誌・ホームページ・メールニュースで新知見を有する論文，行政通知，診療報酬関連情報などの最新情報，公益的な調査報告を収集できます。

③ 保険への加入で安心して業務ができます。

- ・ 会員が加入できる薬剤師賠償責任保険は，薬剤師個人の責任を補償します。
- ・ 施設契約は，実務実習中に薬学生が起こした事故に対する薬剤部の管理責任を補償します。

④ 各種認定制度によりスキルアップができます。

- ・ 生涯研修認定制度で最新の知識、技術を習得することができ、所定単位を取得した方には認定証を発行します。
- ・ 専門薬剤師部門が行う薬剤師の専門性を活かした高度な薬物療法などに関する知識・技術を習得する研修に参加でき、認定要件を充たす方は専門薬剤師として認定しています。

⑤ 日常業務を相談できる仲間ができます。

- ・ 各都道府県病院薬剤師会・各支部の講習会や意見交換会などに参加することにより、各地域の中で身近な仲間ができ、日常業務や情報交換を行うことができます。

実施される生涯研修は

日本病院薬剤師会では、
日進月歩の医療技術を薬剤師業務に反映させるため、
薬剤師の卒後教育を推奨



都道府県病院薬剤師会と連携して、
業務に直結する知識、技術、最新情報などを提供する
講習会を開催



平成27年度からカリキュラムに基づき幅広い知識、技能
を習得し、臨床現場における実践力を備えた会員薬剤師
を養成する

「日病薬病院薬学認定薬剤師制度」を開始

開催される講習会，研修会は

多様な薬剤師の自己研鑽を支援するため，日本病院薬剤師会
は平成27年度に35回の様々な講習会，研修会を開催しま
した。

プログラムはホームページの更新履歴から参照可能です。

例えば

実務研修会，中小病院薬剤師実践セミナー，
医薬品安全管理責任者等講習会などは，
病院薬剤師の業務に直結する知識，技術を習得
できます。

講習会，研修会は都道府県病院薬剤師会でも
頻繁に企画，開催されています。



病院薬剤師



総合力実践の場が病院薬剤師

本当のチーム医療がここにある

薬剤師になって良かった
その瞬間を感じてみませんか？

仕事の厳しさと喜びを

薬学部